

## 平成19年度総合評価方式結果

平成20年5月

項 目	全 体			備 考	試 行 結 果
	簡易型	標準型	計		
試行件数(件)	67	17	84		○3月末時点で84件が執行済み(100%)
落札率(%)				条件付一般競争入札(平成19年度)の平均落札率82.33%	○条件付一般競争入札の平均落札率と比較するとほぼ同程度である。 ○簡易型、標準型の区分による大きな差異はない。
最大	100.00	93.26	100.00		
最小	70.21	74.21	70.21		
平均	82.24	80.60	81.91		
参加者数(者)				条件付一般競争入札(H19年度)の平均参加者数6.7者	○条件付一般競争入札の平均参加者数と比較するとほぼ同程度である。 ○簡易型、標準型の区分による大きな差異はない。
最大	17.0	14.0	17.0		
最小	1.0	2.0	1.0		
平均	6.5	6.7	6.5		
技術評価点(点)	簡易(110点)	標準(120点)	標準(130点)	技術評価点の最大点 簡易型:110点 標準型:120又は130点	○簡易型(110点)における最大最小の差は8.57ポイント、標準型(120点)における差は17.68ポイント、標準型(130点)における差は25.18ポイント。 ○技術評価点における最小点は、簡易型、標準型の区分に関係なくほぼ同程度である。
最大	109.10	118.75	126.25		
最小	100.53	101.07	101.07		
平均	104.50	108.76	113.93		
価格逆転件数				価格が1位で落札者になれなかった案件	○簡易型は価格逆転件数割合が20.9%と低い。
件数	14	9	23		
割合(%)	20.9%	52.9%	27.4%		
落札者の状況	67	17	84		○落札者における価格と技術を比較すると、価格、技術とも1位だった件数は半数以上を占めている。(43件/84件=51.2%) ○価格が1位で技術力が1位以外であった案件は全体で18件、うち簡易型は16件、標準型は2件であった。 ○価格が1位以外の案件(価格逆転案件)では、技術力が1位であった案件がほとんどで、技術力が1位以外であった案件は3件であった。 ・価格:技術=2位:4位(価格1位:技術9位) ・価格:技術=5位:2位(価格1~4位:基準価格設定適用、技術点1位は価格9位) ・価格:技術=4位:2位(価格1位は基準価格設定適用:技術4位、価格2位3位は技術10位8位、技術1位は価格11位)
価格:技術=1位:1位	37	6	43		
価格:技術=1位:2位	8	2	10		
価格:技術=1位:3位	4	0	4		
価格:技術=1位:4位以下	4	0	4		
価格:技術=2位:1位	6	5	11		
価格:技術=3位:1位	4	0	4		
価格:技術=4位以下:1位	1	4	5		
価格、技術とも1位以外	3	0	3		
基準価格設定型の効果				土木部のみ試行 簡易型:54件 標準型:16件 ( )は、落札者が基準価格設定型の効果により逆転した案件	○基準価格設定型の効果では、簡易型より標準型の方が適用になった案件割合が高い。 ○全体70件のうち、37.1%が基準価格設定の適用になり、8.6%は落札者が逆転している。
件数	16(4)	10(2)	26(6)		
割合(%)	29.6(7.4)	62.5(12.5)	37.1(8.6)		

平成19年度総合評価方式結果

平成20年5月

項目	全体			備考	試行結果	
	簡易型	標準型	計			
低入札価格調査件数					○低入札価格調査制度の対象案件の割合は、簡易型より標準型の方が割合が高い。 ○特に標準型では、41.2%と高い割合になっている。	
件数	15	7	22			
割合(%)	22.4%	41.2%	26.2%			
評価項目における入札参加者の得点割合(%)						
企業の技術力(5点)	施工能力(1点)	76%	36%	67%	○企業の技術力を評価する項目では、施工能力、工事成績、品質管理において、入札参加者の得点割合が高いが、優良工事、技術者確保数においては、50%以下となっている。	
	工事成績(1点)	75%	59%	71%		
	優良工事(1点)	27%	34%	28%		
	品質管理(1点)	70%	89%	74%		
	技術者確保数(1点)	45%	40%	44%		
配置技術者の技術力(4点)	施工能力(1点)	40%	15%	35%	○配置予定技術者の技術力を評価する項目では、各項目とも入札参加者の得点割合は少ない。中でも優良工事の項目では10%程度である。	
	工事成績(1点)	50%	42%	48%		
	資格保有(1点)	18%	27%	20%		
	優良工事(1点)	10%	13%	11%		
企業の地域社会に対する貢献度(9点)	障がい者(0.5点)	20%	34%	22%	○企業の地域社会に対する貢献度を評価する項目では、地域経済、ボランティアの得点割合が高く、環境配慮、次世代、新分野は20%以下である。	
	安全管理(0.5点)	48%	74%	52%		
	環境配慮(0.5点)	12%	28%	16%		
	地域経済(1.5点)	83%	55%	77%		本店所在地、県内業者活用等
	ボランティア(4点)	65%	46%	61%		
	次世代(1点)	12%	22%	14%		
	新分野(1点)	16%	32%	20%		
施工計画(10点)	施工計画(10点)	4.02点	3.98点	4.01点	入札参加者平均得点	○施工計画では、4点程度が平均点となっている。
標準型	技術提案(10点又は20点)	—	4.74点(10点満点)	10.19点(20点満点)	入札参加者平均得点	○技術提案では、5点程度(10点満点)、10点程度(20点満点)が平均点となっている。
まとめ	<p>1 価格逆転件数によると簡易型で20%程度、標準型で50%となっているが、総合評価方式の趣旨や最近の低入札の状況からすると高い割合ではないことから、今後、簡易型・標準型の技術評価点の割合を高め試行を行う必要がある。□ 加算点の割合を高めた。(簡易型10→30点、標準型20→30→50～70点)</p> <p>2 基準価格設定型の効果では、全体の1/3程度の案件で適用になっていることから、引き続き実施する必要がある。□ 全ての工事で適用することとした。</p> <p>3 評価項目については、地元の安全安心を担う企業を適切に評価する観点から、除雪や災害等に対応した企業を評価するなど、評価項目の見直しが必要である。□ 新たに除雪や災害対応等を評価項目に加えた。</p> <p>4 低入札価格調査制度の調査対象案件は、全体の30%程度となっていることから、他県の事例等を考慮し、失格基準等の設定が必要である。□ 新たに失格基準(数値的判断基準)を導入したほか、低入札対策も講じることとした。</p>					